

食のあり方無視の改正基本法

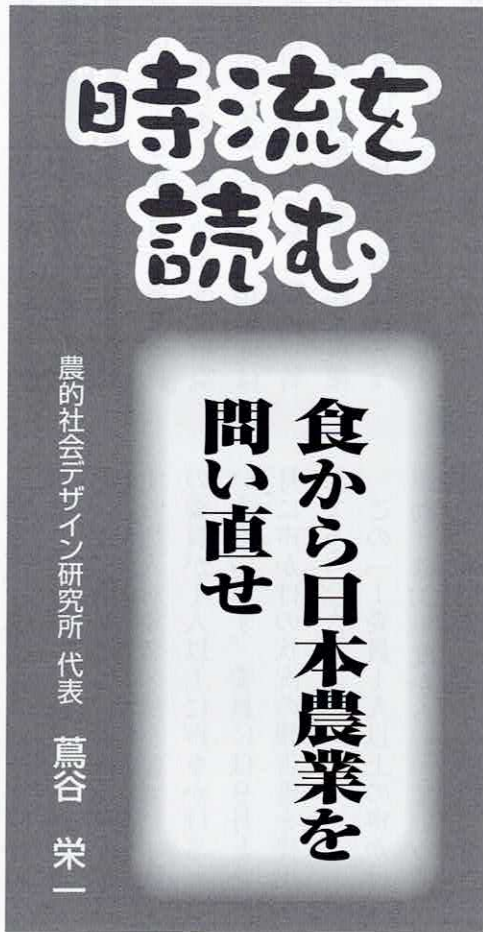
食料・農業・農村基本法の改正法案はこの5月29日に成立した。改正の最大課題となつたのは食料安全保障であり、水田の畑作化等の施策が盛り込まれた。しかしながら食料安全保障は普段からの食料自給率の向上があつてこそであり、そのためには持続可能な農業であることが必須の要件で、その1つが適地適作であり、気候・風土に対応した農業であることが欠かせない。まさに風土はFODDだ。ところが基本法改正での議論は食の多様性を前提にしたものが多く、食生活のあり方についての議論はほとんどなく、米飯と野菜を中心にした日本型食生活についての評価もない。食育、農業体験等の言葉は登場するが、そこに食の重要性についての確固とした見識はうかがえない。

『食卓の向こう側』を見よ

そんな折、お届けいただいたのが作画・魚戸おさむ、原作・佐藤弘・

渡邊美穂『食卓の向こう側(コミック編)+健幸は口から』(不知火書房)だ。原作者の1人である佐藤弘さんは西日本新聞社の元記者で、小農学会の世話人でもある。先般、小農学会でお話をさせていただく機会を得たが、これをきっかけに

ミック編①として発行したものだ。第1部はコミックによる5つのお話とその解説編。ここでは食生活の現状を踏まえて食のあり方を問うとともに、母乳と食の関係、咀嚼の重要性、そして、食卓の向こう側にある農のあり方を問う



お送りいただいた本の1つがこれである。

2023年6月に発行されているが、あとがきによると、03年に西日本新聞が開始した長期連載「食卓の向こう側」がブックレットで刊行され、これをあらためてコ

ている。これらの根底には「医は食に、食は農に、農は自然に学べ」(医師・竹熊宜孝)の思いが息づいている。そして第2部では「健幸は口から」として「あいうべ体操」や「マウステープ」等による口と鼻からの健康法が取り上げら

れている。まさに「治療は医師しかできないが、予防は素人でもできる」(歯科医師・松本敏秀)という信念がにじみ出たものだ。いずれこの続編としてコミック編②の発行が計画されているようで、まさに「自然に学ぶ農」を中心とした企画のようで楽しみだ。

食・農は命だ

あらためて基本法の話に立ち戻るが、改正基本法では環境との調和、多様な担い手等があらたに書き込まれてはいるが、従来からの生産性向上・大規模化路線に変わりはしない。現在直面している問題は「食や農を命と考えず、経済問題をとして、学問が引っぱり、効率化を最優先した結果」(竹熊宜孝)であり、ここにこそ日本農業が直面する「危機」の根本的原因があるのではないか。もはや国政に期待するのではなく、生産し消費する現場で、自らが食のあり方を問い実践していくところから再スタートするしか残された道はないようだ。